

Like 74

ツイート

0



週刊 ヤマケイ

今週末の「山のワンポイント天気」

秋も深まってきて、山々からは紅葉の情報が届いています。しかし、秋は天候の急変に注意が必要な時期でもあります。今週末の山の天気について、ウェブサイト「山の天気予報」を運営し、メールでの天気予報配信も行なっている株式会社ヤマテンの気象予報士・渡部均さんと小林充さんに解説していただきます。

先週、千畳敷から木曽駒ヶ岳へ登ってきました。この日は天気がよく、風の当たらないところでは半袖でも問題ないほどでした。しかし、秋が深まるこの時期は天候が急変した場合、必要な装備を持っていなければ致命的な事態に陥る可能性があります。天気予報などを確認するとともに、防寒対策などしっかりした装備で秋山に臨むことが大切です。



高妻山が朝日に浮かび上がる（写真＝長谷部 勝）

9月24日～25日、晴れのち曇り

紅葉は標高1800mより上で7～8割ほど進んでおり、心配された天候不順による色づきの悪さもあまり感じられません。

この山域は頸城アルプスとも呼ばれ、その中でも妙高山、火打山、新潟焼山は2400mを越える山々です。緯度が北にあるので、2400mでも北アルプスの高山と同等の環境を持ち、ライチョウ生息の北限でもあります。さらに上信越の山々の特徴をも合わせ持った興味深い山域です。

両脇を火山にはさまれたこの火打山だけが豊かな高層湿原を持つフォッサマグナ隆起型の非火山というのも趣き深いですね。

（文＝長谷部 勝／山岳写真同人四季）

参考書籍

アルペンガイド『谷川岳・越後・上信越の山』

<https://www.yamakei.co.jp/products/2812013640.html>

寄稿者関連HP

山岳写真同人四季

<http://www.doujin-siki.com>



登山地情報



新潟長野県境・苗場山

草紅葉燃える高層湿原



朝日さす高層湿原（写真＝小瀬村 茂）



坪場付近の紅葉（写真＝小瀬村 茂）

9月24日、快晴

苗場山に登るコースはいくつもありますが、この日は車で三合目まで行ける長野県栄村の秋山郷からのルートです。小赤沢コース三合目には100台くらいの駐車スペースがあり、マイカー登山の場合はとても助かります。

日の出時刻に合わせての日帰り登山のため、早朝2時に駐車場を出発しました。登山道には距離と時間が表示された標柱が立ててあり、三合目から四合目まではほぼ標柱通りの30分でした。歩行の目安になり気分的にとっても登りやすい山道です。

七合目付近から急登となり、八合目を過ぎると20分ほどで坪場と呼ばれる開けた台地に到着。ここからは湿原と池塘が続く木道歩きになります。登山途中に星が見え隠れしていましたが、山の中腹をガスが流れていたようで、そのガスもすっかり消え、東の空はすでに赤味を帯びて日の出が近いことがわかります。

湿原台地から再び樹林帯に入り、歩きにくい石が続く道を抜けると山頂に到着です。雲間からはすでに朝日がのぼり始め、湿原一体を黄金色に染めていました。その景色に見とれている余裕はなく、慌ててカメラと三脚をセットして日の出直後の写真撮影に間に合いました。

雨上がりの後でもあったので初秋の風がとても心地よく、濡れた草紅葉は一段と色に艶があり、苗場山ならではのとおきの高層湿原の美しさでした。

(文＝小瀬村茂／山岳写真工房)

参考書籍

アルペンガイド『谷川岳・越後・上信越の山』

<https://www.yamakei.co.jp/products/2812013640.html>



週刊ヤマケイ

登山地情報



上信国境・四阿山、根子岳

北アルプスが一望できました



根子岳山頂にて。後方は四阿山（写真＝畠山茂信）

週刊 ヤマケイ

通巻263号 2017年9月28日号

カバー写真＝大雪山・北海平から見たトムラウシ山とチングルマの紅葉
撮影＝谷水 亨

株式会社山と溪谷社

〒101-0051東京都千代田区神田神保町1丁目105番地

編集

佐々木 惣

アートディレクター

松澤政昭

SSデザイン

塚本由紀(T&Co.)

技術サポート

福浦一広、金沢克彦

プロデューサー

萩原浩司

©2017 All rights reserved. Yama-Kei Publishers Co., Ltd.